



親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要 (本願寺 御影堂) 2 ページに記事

山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会

発行 山陰教区 教務所
〒660-0002 松江市大正町四四三ノ一
本願寺山陰教室

TEL 〇八五二 21 四七四七
FAX 〇八五二 27 八三五一
利信 農

ご挨拶

築地本願寺 教化育成部長 佐々木 了慎
ささき りょうしん

慈光照護のもと、皆様には益々ご清祥のことお慶び申しあげます。
 四月一日付をもちまして、築地本願寺部長を拝命いたしました。

平成三十一年四月から四年間に亘る在任中には、一方ならぬご厚情を賜りましたこと、衷心より御礼申しあげます。「第四十五回全日本仏教徒会議島根大会」をはじめ「山陰教区・本願寺山陰教室 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の修行、さらには実践運動の推進など、教区の皆様方の多大なるご支援とご協力のもと取り組むことが出来ましたこと、幾重にも御礼申しあげます。

山陰教区で賜りましたお育てを体し、新任地にて宗門の発展とご法義の繁盛のため微力を尽くす所存でありますので、今後とも相変わらぬご教導のほど宜しくお願い申し上げます。
 末筆ながら、皆様の益々のご活躍を念じあげます。
 合掌

ご挨拶

山陰教区教務所長 是 利信
はやし のぶ
 本願寺山陰教室主管 農

本年、四月一日付にて山陰教区教務所長・本願寺山陰教室主管を拝命いたしました是利信（はやし のぶ）と申します。本年三月までの四年間は、社会部長（社会事業・災害対策担当）として勤務いたしておりました。地方宗務機関は平成二十五年二月から東北教区、平成二十八年四月から熊本教区で務めさせていただきました。この度山陰教区でのご縁を賜りました。皆さまどうぞよろしく願ひいたします。

さて、ご本山では、三月二十九日から五月二十一日まで五期三十日間にわたり親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要が厳修され、国内はもとより世界各地から七万五千人がお参りになりました。山陰教区からも組参拝団を中心に多くの方にご参拝をいただきましたこと心から感謝申しあげます。

慶讃法要御満座のご消息の中で「門主さまは、

『このたびの慶讃法要を機縁として、あらためて「世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人のお言葉を深く心に刻み、これからもお念仏を喜び、阿弥陀如来の智慧と慈悲をあらゆる人々に伝えることで、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に向け、さらなる歩みが続けてまいりましょう。』

とお示しくださいました。聖人が説き示してくださいました浄土真宗のみ教えに出遇うことがなければ、お念仏申す今の私は存在しません。多くの先人のご苦勞と不思議なご縁によって、自己中心的な考え方しできない私が少しずつ変えられ、おかげさまで手を合わす人生を歩ませていただくご縁を慶ぶばかりであります。

先人から受け継がれてきたお念仏のみ教えを次の世代にお伝えするため微力ながら精一杯精進いたす所存であります。皆さまには何卒ご教導くださいますよう重ねてお願い申しあげ、着任の挨拶とさせていただきます。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要
山陰教区団体参拝一覧(実数)

期	組名	参拝日	参拝人数	期毎
第1期	出雲	3月30日	89	285
	出雲南	3月30日	54	
	鳥取因幡	3月31日	142	
第2期	江津1	4月1日	30	412
	松江	4月10日	56	
	川本	4月10日	39	
	邑智東	4月10日	35	
	神門	4月13日	107	
	千須賀	4月13日	32	
	鳥取伯耆	4月14日	39	
	飯南	4月14日	39	
	佐波	4月14日	35	
第3期	大田東	4月25日	70	339
	大田西	4月25日	58	
	益田	4月25日	47	
	浜田	4月26日	24	
	三隅	4月26日	65	
	鹿足	4月26日	75	
第4期	大田中	5月8日	62	153
	邑智西	5月8日	43	
	江津2	5月8日	48	
		合計	1,189	

「親鸞聖人御誕生八五〇年・
立教開宗八〇〇年慶讃法要」ご報告

二〇二三(令和五)年三月から五月にかけて、五期三十日間、本山でお勤まりになった「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が、五月二十一日(日)の法要でご満座を迎えました。

この法要は、「親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はありません」という聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する「法要」です。

法要期間中、山陰教区からは一、二八九名の団体参拝(別表参照)の他、七団体・一三一名の寺院参拝をいただきました。



ご本山への団体参拝は弊社へご用命をよろしくお願い致します。

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB 山陰支店**

〒690-0003
松江市朝日町477-17 松江SUNビル7階
TEL 0852-23-6720
FAX 0852-23-7739
営業時間：9:30～17:30(土・日・祝日休業)

フードバンク活動報告

ご協力いただいた団体・個人から
二五五件(延べ数)
届けていただいた食品・日用品の
数 二、八五〇個
お米約七七〇kg、
お菓子約九六〇食、
インスタント食品約九七五食、
缶詰約一八五個、
調味料二八〇個、
飲料水約四六〇本
その他日用品(洗剤・タオル等)

これまで四十二回に亘り山陰両県の
社会福祉協議会や管轄する役所、

活動されている団体へお渡ししました。今後も継続して実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。
○届けていただきたい食品

お米・レトルト食品・インスタント食品・缶詰・瓶詰・乾麺・のり・わかめ・昆布・粉末食品(お茶漬けの素・味噌汁・ふりかけ等)・調味料(醤油・砂糖・麵つゆ・塩・味噌・酢・食用油等)・菓子など

○注意いただきたい事項
・賞味期限が明記されており、一ヶ月以上あるもの(社協によっては三ヶ月以上)
・未開封で中身が出ていないもの
・常温保存が可能なもの

ビハラー山陰公開講座

日時 二〇二三(令和五)年
三月二日(木)

会場 鳥根県立男女共同参画センター
ターアすてらす(大田市)
参加者 六十四名

新型コロナウイルス感染症の影響のため、四年振りに公開講座を開催いたしました。

ご講師をお二方をお願いし、龍谷大学文学部教授の鍋島直樹 師から、「悲しみの中で生きることを支えたい

〜ビハラー活動と親鸞聖人の死生観〜」と題し、また、株式会社はつぴい and プロジェクト代表取締役の辻瑞恵 先生から、「お寺と町の未来が変わる! お寺で終活 円満人生」と題してお話をいただきました。

お二人のお話の後には、武田正文 ビハラー山陰会長を交え、ご講師の思いなどについて語っていただきました。

このたびの講座は、これまでにない形での開催となり、また、お二方

本山の「親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要」期間中、聞法会館のロビーに山陰教区の事例がパネル展示されました。



の話によつて、今後、ビハラー活動を展開していくうえで新たな方向性が伺える有意義な講座となりました。



近 御本山用達
株式会社 **川勝法衣店**
TEL.0120-075-055
〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入
TEL.075-371-0367(代)
FAX.075-371-5088

印刷と出版でできること。
編集・デザイン・印刷・出版のプロとして
様々なソリューションを提供する。
人と向き合い、地域と向き合い一緒になってつくること。
それが私たちにできる、地域貢献のカチガとと考えています。

お客様の良き相談相手になることを目指します
株式会社谷口印刷
HARVEST ハーベスト出版

子ども・若者づくりリサポーター研修会

邑智東組 高善寺 武田正文

三月三日(金) 十九時から、Zoomを使いオンラインでサポーター研修会を開催しました。テーマは「SNSから見えてきたお寺の必要性」ということで、浄土真宗本願寺派内で最多フォロワーの釈優希先生のお話をうかがいました。SNSだけではなく寺院の活動とどのように連携するのかを綿密に考え抜いて

TikTokと向き合っておられました。そして、Z世代と呼ばれる今の十代二十代の若者にとって、お寺という空間は新鮮でありアピールするチャンスがあるとのこと、山陰教区で挑戦していく後押しをしていただきました。

今回から山陰教区子ども・若者づくりのマネージャーのメンバー

連研履修者研修会に参加して

松江組 真光寺 吉田剛

三月四日(土) 山陰教堂教化センター研修室にて、連研履修者研修会に参加させていただきました。今回は連続研修会を修了された三名の方々をはじめ、門徒推進員や僧侶とともに大田東組専勝寺・金盛徳照先生から「私たちのちかい」について教わりました。

「私たちのちかい」は、私たちが社会と関わりながら仏道を歩む上での指針となるものです。ところで「私

にとつての幸せ」とは何でしょうか。私や私の親しい人の幸せを願うことは当然のことです。しかし、すべての人の幸せを願う阿弥陀如来に出会い私自身を省みると、私個人や親しい人のみの幸せを望むことに終始していることが気付かされます。日々の生活が苦しく他人を心配する余裕がない方もおられるでしょう。しかし、直接手を差し伸べることができるだけでなく寄り添うことができる

が新しくなりました。これまでキツズサンガからの流れを作ってください、二〇一九年には「寺フェス」を開催され、いよいよこれから盛り上げたいというタイミングで新型コロナウイルス感染症が広がり始めました。これまでの流れが一度止まってしまう形になり非常に残念ではありましたが、改めてアフターコロナの社会において、浄土真宗が子ども・若者に対してできることを模索したいと考えております。今後は、SNSやオンライン会議などを柔軟に使いながら、立地的に離れていて

も無理なく協力できるような体制を作っていきたくと考えております。

左記のQRコードは山陰教区子ども・若者づくりの公式LINEです。研修会やイベントなどの情報をこちらから発信いたしますので、僧侶、寺族の皆さま方で興味のおありの方はぜひご登録くださいませ。



ことを教わりました。

先生がインドで貧困と病に患った方と出会われた話です。ガイドの方から関わらないようにと言われていたのですが、迷った結果、お金を渡されたそうです。先生は御自身の行為が良かったのか考えている中、友人から「御自身の行為は相手をほんの一瞬楽にさせたに過ぎず根本的な解決にはならない。しかし、今日一日のいのちを繋いだと考えれば、意味のないことではない。相手のことを忘れず考え続けることが寄り添うことではないか」と言われたそうです。

「私たちのちかい」では四カ条各々

の最後に「仏さまのように」と表現されていることが特徴です。私たちは煩惱に染まった凡夫であるのに、仏さまのように振舞うなど真似事に過ぎないと疑問に思うかもしれせん。しかし、たとえ限定的で真似事であつても、それによって救われる人がいること、また自分の他者に対する言動を見つめ直すことは、広く社会へ関わっていく歩みを表しています。この度、連続研修会を修了された方々には是非、本山での中央教員としてともに社会と関わりながら仏道を歩まれることを願っております。

教学研修会(第一回)

飯南組 西蔵寺 源みなもと 彰あき 弘ひろ

三月六日(月)、布教団主催による教学研修会が山陰教堂教化センター研修室にて、開催されました。

ご講師には、岡村謙英師(山口教区 邦西組照蓮寺前任職・本願寺派輔教・山口教区布教団元副団長)をお招きし、安心論題「信心正因」「二種深信」についてのご講義をいただきました。

私が学生時代に学ばせていただいたときには、安心論題は二十五題でありましたが、二〇〇二(平成十四)年に一部が統合されて、時代の状況から必要のうすれた論題ははずされ、必要性の増した論題が追加され、安心論題は十七題になっていました。当日、聞かせていただきました「信心正因」にも「信疑決判」が統合されています。

「信心正因」は、自力修行の聖道門と雑行雑修自力心の十九・二十願に対して、十八願が唯信独達の法門であることを明示して、信証直接・一因一果の別途不共真宗を開顕している。また、「信心正因」は、安心論題として称名正因、歡喜正因、欲生正

因の異議に対して「この題意に沿って、ご講義いただきました。」

閉会式では、瑞光副団長が挨拶。「今回の研修会は、布教団員から教の要請を受け役員会で検討し、安心論題の研修会を開催することとなりました。今年度はあと二回の研修会開催が予定されています。この研修会を通して如来の真実信心を正しく、わかりやすく、ありがたく伝えるよう教学研鑽を深めてほしい。」とのことでした。

今回、初めて研修会に出席させていただきましたが、また機会をつくって参加できればと考えています。



第2回教学研修会の様子(6月23日)

青年布教使大会に参加して

三隅組 西方寺 河野こうの 慈よし 演のぶ

三月九日(木)に、千須賀組眞浄寺におきまして、「山陰教区青年布教使大会」が開催され、お聴聞させていただきました。

今回の開催にあたりご尽力いただきました皆さまに、深く御礼申し上げます。

私自身、今回初めて青年布教使大会に参加させていただきましたが、ご法話から、閉会後のご講評に至るまで、そのすべてが貴重な学びの場となりました。

当日は、「伝える伝道」から「伝える伝道」へ」というテーマに基づき、四名の布教使にお取り次ぎいただきました。それぞれの体験やエピソードを通し、笑いも交えながら、阿弥陀如来さまのお心を正しく、わかりやすく、ありがたくお取り次ぎいただきました。

昨今はオンラインによる法話配信もありますが、やはり対面でのお聴聞の良さを再確認いたしました。

閉会後には、団長・副団長をはじめとする布教使の方々からのご講評をいただきました。ご講評をいただ

く中で、テーマにあります、「伝える伝道」ということについて、何を以って伝わったといえるのが、とても重要になってくるのだと実感いたしました。法話の内容が本当に相手に伝わっているのかどうか、布教をするうえで私自身問われているのだと思います。

耳にする機会が多くなってきた「伝える伝道」という言葉ですが、改めてその言葉の持つ意味の奥深さを教えていただき、今一度、私自身も「伝える伝道」ということについて考えねばならないと実感いたしました。

最後になりますが、この度の青年布教使大会で学んだことを大切に刻み、今後も研鑽を重ねていく所存でございます。尊いお育てを賜り、ありがとうございました。



門徒推進員連絡協議会 実践運動研修会

三月十一日(土)、「山陰教区門徒推進員連絡協議会 実践運動研修会」を山陰教堂で開催いたしました。この実践運動研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続き、実に四年ぶりの開催でした。参加人数は四十名でした。山陰教区研修講師で飯南組真向寺住職の吉川光城師にご出講いただき「門徒推進員として、これからのあり方」をテーマに、話し合い法座の問題提起をいただきました。

話し合い法座では、四班に分かれ、コロナ禍での現状を踏まえどのように活動を行っていたのか、また、どのような問題を抱えているのか、さらに、門徒推進員としてこれからのように活動していくのかなど、熱心に話し合われました。

全体協議会では、話し合い法座の内容を各班の代表者に発表いただきました。門徒推進員が減少傾向にあること、コロナ禍によって地域の活動が滞り再び活動を行うことが困難な状況になってきていること、また、家族葬が増え以前のような葬儀の形に戻るのが心配であること、などの声がありました。



その後、ご講師の吉川師からまとめの講義をいただきました。各組の連研担当者も門徒推進員が減少傾向にあることに危機意識を抱いており、連研を行う前の事前準備を今以上に頑張っていること、また、今まで通りの活動に戻れるようにご住職同士で話し合い、少しずつでも戻していくように努めていることなど、お寺側の取り組み事例を交えながら説明いただきました。

多くの問題を抱えている現状ではありますが、この度の研修会を通して、門徒推進員の皆さまの熱い思いを直接感じることができました。

青年布教使研修会を終えて

浜田組 光西寺 細川 杏美

去る三月二十八日(火)、山陰教堂におきまして、青年布教使研修会に参加させていただきました。

「マーケティング戦略及び、文章の構成について」をテーマに、『仏教こども新聞』編集長の前田純代先生にご講義をいただきました。

前田先生の経歴は、国内外にわたっており、ご結婚を縁として、入寺されたということでした。その後、『仏教こども新聞』の編集に携わり、今は編集長として、また、多方面での執筆活動などで活躍されています。「わかりやすく、限られた文字数の中で簡潔に」という作業の難しさや、組み立て方のアドバイスをいただきましたが、伝道院での学びを思い出しました。

例話はスラスラと書けるのに、合法では言葉が難しくなったり、仏教用語に頼ったり、回りくどくなったり…。前田先生の講義は、そんな日々を思い出し、原稿作成は、布教にとって、重要なものだと改めて教えられました。

それぞれのお寺に合ったマーケティングも重要であるが、せっかくなので「おみのり」がなければ、「お寺でする意味がない」ことを教えていただき、大きな学びとなりました。

講義内容の大切さをより際立たせる

言葉を、北島副団長からいただきました。

「段取り八分」。仕事でも法話作成でも、事前準備が大切で、きちんと段取りをしていれば、仕事も法話作成も八割方完了したという、格言です。お取次ぎさせていただく際のライブ感も大切ですが、そのライブ感に「おみのり」がなければ自分語りになってしまいうことを、しっかりと腹に据えて、事前準備を怠ることなく、ご指導いただいたことを実践して参りたいと思います。

最後になりましたが、貴重な学びのご縁をくださった、前田先生、教務所の皆さま、青年布教使の先輩方、本当にありがとうございます。



第十七回世界仏教婦人会大会に参加して

江津組 浄光寺 仏教婦人会 森^{もり}口^{ぐち}成^{しげ}子^こ
(山陰教区仏教婦人会連盟副委員長)

五月十一日(木)・十二日(金)に、「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の記念行事として、第十七回世界仏教婦人会大会が、本願寺と国立京都国際会館において開催されました。お念仏の慶びをとともに分かち合い交流を深め合う場として、海外から四百余名・日本から二千余名の仏教婦人会会員が集い、山陰教区からも六十名が参加しました。

前日の早朝から、大きなご縁に遇える慶びに胸を膨らませ、一号車・二号車の二手に分かれてバスで京都に向かいました。ホテルにチェックイン後、夕食交流会では、世界仏婦大会と慶讃法要への思いで会話も盛りあがったひと時でした。十一日の午前は、本願寺の慶讃法要に参拝。雅楽、お勤め、ご門主さまのご親教がありました。午後は、京都国際会館に移動し、それぞれのイベント・ワークショップに参加しました。広い会館の中はワークショップスペースが何か所もあり、選択するのが大変でしたが、

生け花パフォーマンスと御絵伝解説を選び会場に向かいました。大きな会場には国内外の会員の方でいっぱい。身をのり出して見学しました。全部回りきれなかったのは残念でしたが、皆さんは目的の会場にそれぞれ足を運ばれ堪能されたと思います。その後、総裁さまとともに一堂に会しての交流会に参加しました。

海外・他教区の会員六人が一つのグループになり、プレゼント交換がはじまりました。思いを込めた手作りの作品や地域の特産品等、自己紹介をしながら交換。外国の方とは言葉が通じない中、身振り手振りでコミュニケーションは取ることができ、とても喜ばれました。ステージでは、海外の方々のパフォーマンスやシンガーソングライターのちひろさんのミニコンサートで盛りあがりました。二日目は、国際会館のメインホールとアネックスホールの二会場に分かれての開催となり、山陰教区はアネックスホールでリモートの参加となりました。開会式では、献灯献花

の後に、お正信偈を皆でおつとめし、総裁さまからお言葉をいただきました。その後、ちひろさんの記念公演、森田眞円先生から「願いに生かされて」と題しお話をいただきました。

午後からは、前総連盟会長の大道五十鈴さんや海外の仏婦連盟代表四人の方による体験発表がありました。大会のテーマ「ご縁を慶び、お念仏とともに」のとおり、まさに言葉の一つひとつに発表された皆さまからの思いを感じ取ることができました。

大会の最後には、次回開催地であるハワイの方から開催日などの報告があり、大会旗の受渡しが行われ、総連盟副会長の御礼の挨拶の後、「恩徳讃」を唱和して二日間の日程は閉じられました。

この二日間大きなご縁に出遇えたことに感謝し深い喜びを味わいました。

今、核家族化や急速な多様化の流れの中で、私たちはご縁を慶び分かち合い、益々、お聴聞を通してお念仏とともに生かされていきたいと思つたこととございます。

最後になりましたが、ご一緒しました皆さま、事務局の皆さまには大変お世話になりました。感謝申し上げます。

合掌



布教団総会

期日 二〇二三(令和五)年五月二十二日(月)

会場 本願寺山陰教堂

出席者 教化センター研修室 四十名

総会では、前年度事業報告・決算報告、監査報告及び今年度事業計画(案)・今年度予算(案)について慎重に審議いただき議案は原案通り議決されました。また、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)について意見交換が行われ、研修会実施については今後、検討していくこととなりました。

キッズサンガサポーター交流会

六月七日(水)、オンライン(Zoom)を使って開催。十二名のキッズサンガサポーターのご参加をいただきました。

この交流会は、「オンラインからは始めるつながりづくりー今後の子ども・若者ご縁づくりの作戦会議ー」をテーマとして開催。教区の子ども・若者ご縁づくり事業を進めるにあたり、サポーターの皆さまにオンラインを使って負担なく柔軟に連携できる雰囲気を作ること、そして、組や個人で活動されている内容を、教区全体とのつながりの中で、全体の設

計を図ることを目的としたオンライン交流会です。

Zoomのブレイクアウトルーム機能を使い、三つのグループに分かれてグループワークを行いました。アフターコロナにおける各寺・組での取り組みについて、情報交換を行い、全体会で報告。最後に、武田正文教区マネージャーから、「教区の取り組みとして、LINE公式アカウントを運用する。まだゼロベースだが、困りごとがあれば、教区としても協力したい。また、LINE公式アカウントについて、妄想レベル

仏教婦人会連盟 総会・研修会

日時 二〇二三(令和五)年

六月十四日(水)

会場 松江勤労者総合福祉センター

ター 松江テルサ

参加者 二二七名

事業計画案・予算案についてご審議いただきました。また、令和六年度には、山陰教区が担当で、中・四国地区仏教婦人会大会を開催することを報告しました。

本年度は、参加人数を制限することなく開催し、久しぶりに賑わいのある総会・研修会となりました。総会では、令和四年度事業報告・決算報告並びに監査報告の後に、本年度

研修会では、仏教婦人会総連盟講師の野村康治先生をご講師にお迎えし、「親鸞聖人のお手紙に聞く」と題して、浄土真宗のみ教えが今の時代まで伝えられてきたことの有難さを

で良いのでアイデアをいただきました。」とまとめをいただきました。このまとめを受けて、意見交換。

参加者からは、「いろいろな立場の人とオンラインで会えて良かった。こういう機会はありがたい。」「これまでもイベントを行っていたが、コロナ禍で縮小せざるを得なかった。この会に参加することで、お互いの参考になれば良いと思う。」「普段は勤めに出ており、寺の活動がメインではないので、他の寺院の活動を知る機会となった。他の組の人と話せたのが良かった。」と、コメントをいただきました。

わかりやすくお話くださいました。



勤式練習所開所式

六月十五日(木)、山陰教堂教化センター研修室にて、今年度「山陰教区勤式練習所」の第一回講義を開催しました。

開所式に引き続き、「正信念佛偈作法・伽陀」「椅子席作法」について、小原静伍勤式指導員から講義をいただきました。

今年度の勤式練習所は、計六回の講義を開催します(東部会場・山陰教堂、西部会場・佐波組浄土寺)。「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の組における法要行事に向け「新制御本典作法」について学ぶ講義や、ご門徒を対象とした講義などがあります。お申し込みは随時受け付けておりますので、教務所までご連絡ください。

次回の勤式練習所
九月十九日(火)
午後一時半～四時
本願寺山陰教堂にて
「新制 御本典作法」



ビハール山陰総会・研修会

日時 二〇二三(令和五)年
六月二十七日(火)

会場 山陰教堂
教化センター 研修室

参加者 十六名

総会では、前年度事業報告・決算
報告並びに監査報告、続いて今年度
事業計画案・予算案についてご審議
いただきました。

研修会は、ビハール山陰歴代会長
の渡邊哲彦師(浜田組 真行寺)、藤
森勸海師(出雲組 宗玄寺)、三谷卓

良師(江津組 西教寺)のお三方から、
ビハール山陰の歴史と流れについて
お話いただきました。

その後、会員同士で、今後の活動の
展望について意見や思いを話し合いまし
た。新型コロナウイルス
イルズ感染症の影響
響により、今ま
でのようなビハー
ラ活動が展開で
きない現状の中、
今後、どのよう
な活動ができるか
などについての意
見を交換し、共
有することができ
ました。



千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 「平和の鐘」実施にご協力を

期 日 二〇二三(令和五)年 九月十八日(月) 敬老の日

〈平和の鐘実施時間〉

午後一時三〇分〜午後一時三十五分

戦争によって尊い命を失われた全ての方々を追悼し、悲惨な戦争を再
び繰り返してはならないという平和への決意を確認するため、今年で四
十三回目となる「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が国立・千鳥ヶ淵戦没者
墓苑において勤修されます。

また、法要に合わせて、恒久平和への願いを新たにするため、「平和の
鐘」が撞かれます。

同日、同時刻に各寺院でも梵鐘(または喚鐘など)をお撞きいただき、
千鳥ヶ淵戦没者墓苑から発信する平和への願いを全国に広げる「平和の
鐘」の取り組みにご協力をお願いいたします。

※詳細は、本願寺ウェブサイトを参照ください。

第四連区布教使研修会

千須賀組

眞浄寺

もう

毛利

孔

晶

六月二十九日(木)・三十日(金)

に、四州教区布教団主催のもと、香
川県丸亀市のオークラホテル丸亀で
第四連区布教使研修会が開催されま
した。

一日目の前半の同朋研修では、布教
団連合同朋講師の麻田秀潤先生から
『み教えと差別の現実について』Ⅱ女
人往生」というテーマでご講義を賜り
ました。

仏教のみ教えは、性別において救い
や悟りに違いはありません。釈尊は女
性宗教者の存在を認められていました。
親鸞聖人も「観無量寿経」では、韋
提希を権化の仁と呼ばれ、韋提希を
通してご本願に性別による選別はあり
えないこと、そして撰取不捨のお念仏
が聖人ご自身に向けられていることを
經典の中から読み取られています。この
ように仏さまのお心にそいながらお言葉
を味わうことを旨として、親鸞聖人の
經典観に基づいて、み教えに向かわな
ければならない。とお聞かせいただきま
した。

一日目の後半から二日目にかけて
は、本願寺派司教の内藤昭文先生か
ら『伝える伝道』から『伝わる伝道』
へ、伝わっていく伝道、『智慧と慈

悲』という講題でご講義を賜りまし
た。

仏さまの智慧に遇うというのは、浄
土三部経の仏説に「出遇う」ということで、
仏さまの智慧に裏付けられたお慈悲に
出遇うこと。智慧と慈悲は二つで一つ。
智慧をいただくということは、慈悲をい
たたくということ。慈悲をいただきたいお
るといふことは、智慧をいただいている
ということである。また、「愚禿釋親鸞」
の名のりのお話の中で、愚禿とは智慧
に照らされ、煩惱具足と知らされたわ
が身の姿。釋というのは仏さまのお慈
悲に抱かれているわが身。親鸞聖人の
名のりは、しっかりと仏さまの智慧とお
慈悲が響き渡っている名のりであると、
講義の冒頭にお聞かせいただきました。

最後に、伝道とは私が智慧に照らさ
れて、お慈悲
の中にいるこ
との慶びをお
話させていた
だくことであ
ると、先生の
熱意が有難
く、尊いお育
てをいただき
ました。



2022(令和4)年度 山陰教区一般会計 歳計決算

自 2022(令和4)年4月1日
至 2023(令和5)年3月31日

【歳入】

款 項	2022年度決算額	2022年度予算額	対比△減
1 教区賦課金	34,483,125	34,500,000	△ 16,875
1 本年度賦課金	34,483,125	34,500,000	△ 16,875
2 過年度賦課金	0	0	0
2 宗派助成金	10,523,631	10,630,000	△ 106,369
1 宗派助成金	10,523,631	10,630,000	△ 106,369
3 願記手数料	1,744,000	1,800,000	△ 56,000
1 願記手数料	1,744,000	1,800,000	△ 56,000
4 回 金	360,000	335,000	25,000
1 回 金	360,000	335,000	25,000
5 雑 収 入	1,477,049	1,494,445	△ 17,396
1 雑 収 入	1,477,049	1,494,445	△ 17,396
6 前年度繰越金	15,540,555	15,540,555	0
1 前年度繰越金	15,540,555	15,540,555	0
歳入合計	64,128,360	64,300,000	△ 171,640

【歳出】

款 項 目	2022年度決算額	2022年度予算額	対比 ※ 超過
1 教区事業費	11,366,575	12,520,000	1,153,425
1 総合教化企画費	1,721,342	1,950,000	228,658
1 御同朋の社会をめざす運動推進費	1,721,342	1,950,000	228,658
2 教化費	4,071,001	4,880,000	808,999
1 寺院機能振興費	390,601	600,000	209,399
2 婦人青少年費	1,040,000	1,250,000	210,000
3 総代・壮年費	450,000	450,000	0
4 研修費	1,060,902	1,400,000	339,098
5 矯正福祉費	250,000	250,000	0
6 文書伝道費	870,538	900,000	29,462
7 教化活動費	8,960	30,000	21,040
3 助成費	5,196,005	5,290,000	93,995
1 布教団助成金	530,000	530,000	0
2 各種団体助成金	600,000	690,000	90,000
3 地方教化助成費	4,066,005	4,070,000	3,995
4 災害対策費	378,227	400,000	21,773
1 災害活動費	378,227	400,000	21,773
2 会議費	849,322	1,200,000	350,678
1 会議費	849,322	1,200,000	350,678
1 教区会議費	716,482	850,000	133,518
2 組長会費	132,840	250,000	117,160
3 各種会議費	0	50,000	50,000
4 職員会議費	0	50,000	50,000
3 教務所費	22,101,623	23,430,000	1,328,377
1 人件費	18,517,999	18,930,000	412,001
1 教務所職員俸給	11,296,800	11,500,000	203,200
2 賞与	2,516,900	2,520,000	3,100
3 退職交付金	0	10,000	10,000
4 福祉費	2,639,699	2,750,000	110,301

【歳出】

款 項 目	2022年度決算額	2022年度予算額	対比 ※ 超過
5 諸手当	2,014,600	2,100,000	85,400
6 教区勤式指導員事務費	50,000	50,000	0
2 事務費	2,913,837	3,400,000	486,163
1 通信印刷費	1,237,334	1,400,000	162,666
2 事務消耗品費	613,997	700,000	86,003
3 事務諸費	871,106	1,100,000	228,894
4 備品費	191,400	200,000	8,600
3 旅費	382,193	600,000	217,807
1 交通費	382,193	600,000	217,807
4 諸費	287,594	500,000	212,406
1 慶弔供奠費	110,000	150,000	40,000
2 接待費	1,663	50,000	48,337
3 渉外費	36,000	100,000	64,000
4 雑費	139,931	200,000	60,069
4 回金	15,881,007	16,050,000	168,993
1 回金	15,881,007	16,050,000	168,993
1 山陰教堂運営費	12,031,007	12,200,000	168,993
2 災害対策費	1,000,000	1,000,000	0
3 退職積立金	1,000,000	1,000,000	0
4 子ども・若者推進事業費	50,000	50,000	0
5 「各種法要」積立金	0	0	0
6 平衡資金	0	0	0
7 慶讃法要費	1,800,000	1,800,000	0
5 宗会議員選挙費	0	100,000	100,000
1 宗会議員選挙費	0	100,000	100,000
1 宗会議員選挙費	0	100,000	100,000
6 予備費	7,500	11,000,000	10,992,500
1 予備費	7,500	11,000,000	10,992,500
歳出合計	50,206,027	64,300,000	14,093,973

歳入合計	64,128,360
歳出合計	50,206,027
差引残高	13,922,333

オフィスの身近な応援団!
For the best service company.

MIC 株式会社 ミック

本社 〒690-0826 松江市学園南2-10-14タイムプラザビル1F
TEL 0852-27-0329 FAX 0852-27-0376
支店 / 出雲・雲南・大田・浜田・益田・山口

<https://www.mic-ltd.co.jp>



出雲南組実践運動の取り組み

出雲南組 組長 蘿 裕 章

出雲南組は雲南市七寺院と出雲市佐田町三寺院の十寺院で構成しています。当組の実践運動の取り組みについてご報告します。

まず、実践運動連絡協議会です。毎年五月中旬に開催しています。各寺院の住職、寺族、衆徒、各教化団体の代表者などでの参加です。昨年度は前教務所長の佐々木了慎師に「子どもの貧困を救う」というテーマが設定された経緯や取り組みの現状、今後の展開についてご講話いただき参加者の学び直しをしました。

次にフードバンク事業、募金活動の展開です。各寺院のご法座、各教化団体の総会、研修会などで食材を持参いただき、組内の児童福祉施設や教務所に届けさせていただけます。また、各寺院に募金箱を設置し三月に集金して、組内の福祉協議会などへ寄付します。この活動を皆が意識することで、「子どもの貧困を救う」というテーマの自己課題化につながると考えています。

また、人権啓発僧侶研修を毎年十二月に実施しています。昨年度は

「全国水平社」の宣言の解釈や設立の経緯、意義について研修しました。

日常の寺院活動としては門徒式章、聖典、念珠の「三点セット」の携行、着用を奨励しています。葬儀や法事、寺院参拝など仏事に携行、着用するよう働きかけています。また、リーフレットも作成し配付しています。特に、ご門徒に「門徒式章を着ける」という門徒としての「形」も大切であると意識していただく取り組みを広げています。

最後に、出雲南組実践運動推進委員会です。毎年二月に組事務所で行います。参加者は住職、組の各教化団体代表者です。年度の事業実施報告をして、全体で評価し、特に改善すべき内容を確認し次年度へつなげます。

以上が出雲南組の実践運動の取り組みです。今後もより良い取り組みとなるよう努めていきたいと思っております。

つぶやき職員

私はこれまで、自分の興味のない物事に対しては否定的な考え方を持っていました。自分の目に見えていない世界がすべてであり、他人が見ている世界は他

人のものであり自分には関係ないものだと考えていました。それが年齢を重ね、また結婚や子育てを経験することにより考え方が少しずつ変わってきたように感じます。

何事も否定から入ることをやめるべく、子どもの意見も否定から入ることなくまっすぐりと話を聞くようにし、これまで自分が興味

のなかった分野に対しても話を聞くことを心がけるようになりました。自分の見えている世界や考えだけがすべてではない。他人には他人の世界があり、考え方は人それぞれなのだ。自分自身に向き合い自分自身を知る。自分自身をしっかりと知ることにより、他人と向き合うことができるのではないかと、最近はこのことを意識しながら生活しています。

昔の自分であればこんなことは考えなかつたな。と感じることに自分がただ年齢を重ねているだけではなく、昔より少しだけ成長しているのかもしれないと感じました。

(S・R)

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 **古田た佛具製作所**

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーアクセス 0120-343-036

丸谷焼の産地、石川縣能登市の文元「虚空藏文」で一つ一つにこだわり製作された井筒オリジナル小皿です。



F7053 丸谷焼 下藤紋入小皿

サイズ：直径 13.5cm 紙箱入 3,300円 (税込)



井筒法衣店

〒600-8468
京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
Tel 075-351-1234 Fax 075-341-7905
0120-075-720

オンラインショップを開設しました



世界的な文学者である村上春樹さんの著書に『村上かるた うさぎおいしーフランス人』という作品があります。これは、小説でもなければエッセイでもありません。「かるた」とタイトルにあるように、「あ」「わ」で始まる言葉が集められた本です。それも、深い意味が込められているわけでもなく、村上さんが思いつくまま言葉で羅列されたような遊び心満載な本です。

「に」の段には、「ニラレバの世界にはタラレバはない」という言葉がありました。これも、語呂がよくてダジャレのようなものという著者の解説が付いていましたので、それ以上の意味はなさそうです。ですが、それを敢えて深読みしてみます(以下は個人的な見解です)。「ニラレバ」は野菜のニラと肉のレバーを炒めた料理の名称です。好き嫌いはあるでしょうが美味しくて人気のある料理です。また、栄養価も高いといわれています。美味しくても栄養価が高いものは料理の中でも完璧な部類にはいることでしよう。

ていなかったら」とか、「OBがなけレバ」など、自分のミスを悔やむときによく使われる言葉です。ニラレバは完璧、タラレバはミス、としますと、「ニラレバの世界にはタラレバはない」は、「完璧な世界にはミスはない」と意味づけることができそうです。私たちは完璧ではありません。ミスを犯し



一方、「タラレバ」とは、ゴルフのプレー中に、「あるとき池に入ります。ですが、「タラレバ」と振り返りながら、自分の不十分不完全さに気付いていくことが大切であります。そのように深読みしてみますと、この言葉にも浄土真宗としての味わいがあります。この度、ゴルフを愛する教区内の僧侶・門信徒が集おうと「山陰紫水会」を再結成いたしました。

春と秋にゴルフコンペを開催します。また、「紫水会・中四国大会」や「紫水会・全国大会」にも出かけたと思います。「タラレバ」とミスも笑いながらゴルフを楽しみましょう。皆さまのご参加をお待ちしています。



山陰紫水会とは

紫水会は、浄土真宗本願寺派第二十三代宗主であられる勝如上人を囲んでゴルフをされたのが始まりです。上人のお父上にあたる大谷光明院下も、「日本ゴルフ協会(JGA)創設に大きく関わられ、日本ゴルフ界の黎明期に多大なる貢献をされました。名門と呼ばれるゴルフ場の設計者でもその名が知られています。山陰紫水会は本願寺に縁の深いゴルフを通して、一人でも多くの御同朋が集うことよって、浄土真宗本願寺派山陰教区内に親睦の輪が広がり、普段の教化活動に貢献するべく設立されました。ゴルフは歳を重ねてもプレイすることができ、社会的な立場を超えて交流できる素晴らしいスポーツです。ご縁の皆様には是非ともご参加くださいませ。お待ちしております。(山陰紫水会ウェブサイトから引用)

編集後記

ご本山での慶讃法要も無事お勤まりになり、私の所属する組の団体参拝ご一行も無事帰ってまいりました。

この度は留守番をしていましたが、法要のインターネット中継もあり、パソコンの前で参拝団と一緒の法要に遇わせてもらいました。

ご本山の法要中継は平成十四、五年頃には行われていたかと思えます。動画配信の出だしの頃で、出勤の方の顔の区別がつかないぐらいの画質でしたが、自宅で法要に遇えることに感動したのを思い出します。それが今ではYouTubeの高画質で見ることができ、スマートフォンでも見ることができるようになりました。

二十一年で画質は格段に向上し、凛とした面持ちで法要に臨まれる姿、出勤者の緊張感や息遣いまで聞こえてきそうです。動画でこの感動ですから、またご本山に参拝し、お御堂で実際の法要に遇える日を持ち遠く思います。法要はご本山だけでなく、私の組でも慶讃法要が始まります。ご本山の緊張感を思い出しながら法要に遇いたいと思えました。

(S・A)